



ARIMASS Letter

[Association for Risk Management System Studies]

危機管理システム研究学会 2006年6月
第25号

年次大会を終了して - Commencement Ceremony

常任理事 鈴木敏正

(株)日本総合研究所

いつの頃からか、年次大会（年次講演会等と呼称する学会もある）を終えると、その学会の1年の終わりを感ずるようになっていく。学会の卒業式とも言うべき大事な行事である。そこでの発表は、その時点での当該学会のレベルと、それ以上に向かうべきベクトルを如実に示していることが多い。そういう意味では、新たな時代の始まりの儀式という方が適切な表現のように思える。英語で卒業式のことを **Commencement Ceremony** と言う。Commence は、本来始まりを意味する。従って、卒業式は、終わりの会ではなく、元々は希望と誇りに満ちた出発の会、ということなのである。

今回の第6回年次大会は、そのような意味で真の **Commencement Ceremony** と呼ぶに相応しいものであった。初めて試みた前夜祭は、主会場の昭和大学の講堂で昭和大学医学部・病院関係者と当学会会員を中心に実に 500 人を超える人々の参集の中、医療安全を考える - 他領域から学ぶ、と題するパネルディスカッションをも含めて開催された。その時の社会関心事を的確に捉え、現場と共に考え、取り組むとの当学会設立当初からの考え方の実践が、形として結実したものであった。更に本大会では、危機管理・リスクマネジメントの方法論、適用といったまさに運用の議論を越え、社会的不適合の組織・企業の尻拭いともなる危機管理・リスクマネジメントの意義は何か？組織・企業の生き残りのための手段の提供者としての本来的意義は？といった学会の社会的存在の意義に触れるような議論も会議の中でなされた。この2つの点だけでも“リスクマネジメントの新たな展開”という統一テーマに相応しい“始まりの会”であったことを素直に喜びたい。もちろん発表された各論文が現状と未来を見据えた、いずれも意欲的なものであったことは言うまでも無い。来年の大会が待遠しいほどである。

さて、このような中、当学会の設立当初からの理事であられた廣井 脩先生（東京大学情報学環大学院教授）が、59 歳という若さでご逝去された。社会心理学から出られ災害情報学という新たな領域を創られ、被災者の目線から災害被害の軽減を目指して積極的に被災地に足を運び被害者と話されていた姿と、国の災害対策の改善を訴えられて審議会・国会の各種委員会で病を押して発言されていた鬼気迫る姿が臉から消えません。災害被害の軽減というわが国最大の課題解決に向けて当学会の徳谷名誉会長と廣井先生は機会ある毎に議論され危機管理と災害情報の融合の必要性認識が学会設立の契機の一つにもなったと聞き及んでいきます。ここに衷心から哀悼の意を表したいと思います。合掌

目		次	
年次大会を終了して	1	分科会報告	3
2006年度会員総会報告	2	事務局からのお知らせ	6

危機管理システム研究学会 2006 年度会員総会報告

議案

- (1) 2005 年度活動報告に関する件
- (2) 2005 年度収支決算報告に関する件
- (3) 監査報告
- (4) 役員追加選任に関する件
- (5) 2006 年度活動計画〔案〕に関する件
- (6) 2006 年度予算書〔案〕に関する件
- (7) 第 7 回年次大会に関する件
- (8) その他

2006 年 5 月 27 日（土曜日）昭和大学 600 号教室において、危機管理システム研究学会会員総会が開催され、議長 村上處直会長のもとで以下の議案が審議の上、承認された。議案(1)(2)については別記の活動報告説明がなされ承認された。議案(5)(6)については村上会長から説明があり、承認された。監査報告では斎藤淳監事より 2005 年度収支決算書の監査報告がなされ、承認された。議案(4)の役員追加選任に関する件については議長より会則 14 条の規定により常任理事、理事、幹事の選任の提案がなされ、

承認された。議案(7)次回の第 7 回年次大会は、2007 年 5 月 26 日（土曜日）、社団法人日本損害保険協会において開催することが決定し、大会実行委員長として田和淳一（当学会理事）が引き受けられたことの説明が村上会長よりなされた。

2005 年度収支決算書

自 2005 年 4 月 1 日
至 2006 年 3 月 31 日

	取 入			支 出			
	予 算	決 算	差 異		予 算	決 算	差 異
前期繰越金	1,800,000	1,813,813	△ 13,813	大会費	350,000	(3) 196,197	153,803
会費収入	1,795,000	(1) 1,454,000	341,000	分科会研究費	200,000	134,100	65,900
(個人会費)	945,000	954,000	△ 9,000	年報費	400,000	318,750	81,250
(賛助会費)	850,000	500,000	350,000	会報費	270,000	264,730	5,270
雑収入	20,000	(2) 17	19,983	名簿費	65,000	0	65,000
				会議費	40,000	11,370	28,630
				通信費	50,000	39,190	10,810
				事務消耗品費	80,000	52,300	27,700
				旅費交通費	50,000	7,840	42,160
				諸手数料	600,000	(4) 587,325	12,675
				インターネット関係費	40,000	41,268	△ 1,268
				雑費	30,000	0	30,000
				予備費	230,000	0	230,000
				次期繰越金	1,210,000	1,614,760	△ 404,760
合 計	3,615,000	3,267,830	347,170	合 計	3,615,000	3,267,830	347,170

(支出合計 1,653,070)

(12004年度個人会費@6,000円×4名=24,000円
2005年度個人会費@6,000円×151名=900,000円
2006年度個人会費@6,000円×4名=24,000円
2004年度学生会費@3,000円×1名=3,000円
2005年度学生会費@3,000円×1名=3,000円
2003年度賛助会費@50,000円×9口=400,000円
2004年度賛助会費@50,000円×2口=100,000円
(2005年度個人会費納入率 88.7% (157=177)
雑収入: 会員よりの寄付金および銀行受取利息

(3) 大会費内訳
 物件費 464,197
 人件費 60,000
 参加費収入 - 328,000
 196,197
(4) 事務作業費および返送料料他
 普通預金残高 1,544,729
 現金残高 70,031
 1,614,760

2006年度予算書(案)

自 2006年4月 1日
至 2007年3月31日

(単位:円)

収 入			支 出		
	予 算	前年度予算比		予 算	前年度予算比
前期繰越金	1,614,760	△ 199,053	大会費	350,000	0
会費収入 (1)	1,795,000	0	分科会研究費	200,000	0
(個人会費	945,000	0)	年報費 (2)	400,000	0
(賛助会費	850,000	0)	会報費 (3)	270,000	0
雑収入	1,000	△ 19,000	名簿費 (4)	65,000	0
			会議費	40,000	0
			通信費	50,000	0
			事務消耗品費	80,000	0
			旅費交通費	50,000	0
			諸手数料 (5)	600,000	0
			インターネット関係費	40,000	0
			雑費	30,000	0
			予備費	230,000	0
			次期繰越金	1,005,760	△ 218,053
合 計	3,410,760	△ 218,053	合 計	3,410,760	△ 218,053

注記 (1) 個人会員 @6,000×175名×0.9=945,000
賛助会費 @50,000×17口=850,000
(2) 年報費:FD入力作業及び製本費+郵送料
(3) 会報費:印刷費4回+郵送料
(4) 名簿印刷費
(5) 事務作業費及び諸手数料代

分 科 会 報 告

【RMS (リスクマネジメントシステム) 研究分科会】

主査: 常任理事 指田 朝久 (東京海上日動リスクコンサルティング)
今年度も当分科会は以下の活動を行っていきます。どうぞ皆様ふるってWGにご参加ください。

(1) WG活動計画

2006年度は基本的には2005年度の活動を継続発展させていきます。今年度は一昨年から引き続き「リスクマネジメント用語WG」、「リスクマネジメント規格の国際比較WG」を実施します。また「内部統制とリスクマネジメントWG」も継続します。これら3つのWGに加えて翻訳本が出版されてことを受け「COSO IIRMWG」も4月から研究を開始しました。基本的にはこれらの各WGはそれぞれ2ヶ月—3ヶ月に1回程度のWGを開催し、打ち合わせとメーリングリストの意見交換により研究を進め、年度末には1年間の研究報告書を作成いたします。

(2) 年次大会での発表

例年通り各WGの活動による研究成果を報告書にまとめ、2007年の年次大会で発表を行います。

(3) メーリングリストによる意見集約

研究分科会の活動そのものは各WGの会合で実施いたします。活動内容はその都度リスクマネジメントシステム研究分科会全体のメーリングリストで情報交換を行います。研究会に出席出来ない場合はメーリングリストによる意見交換を歓迎します。

この研究分科会は4つのWGが並行して活動しますが、各々のWGはそれぞればらばらに存在するのではなく、リスクマネジメントシステムの研究に統一されてこそ意味があるもので各WG間の相互の交流も歓迎します。メーリングリストは参加不参加の意思確認を毎年活動開始に合わせて実施いたします。

【リスク事例サロン分科会】

(第21回リスク事例サロン分科会開催報告)

主査 島田 公一 (あいおい基礎研究所)

「リスク事例サロン分科会」はマスコミ等で取り上げられた事件や危機事例を題材に、会員間で自由に危機管理・リスクマネジメントの観点から情報交換や意見交流を行うことを目的としています。

本分科会は開催の都度参加者を募り、サロンと言う名前のおり飲食しながらテーマに関連して自由に意見交換を行う会費制の分科会です。今回は、第21回分科会の報告をいたします。

1. 開催日時

2005年11月9日(水) 午後6:30~8:30

2. 開催場所

於 東洋経済新報社 9階会議室

3. 参加者(16名)

河東、北澤、齋藤(淳)、斉藤(康)、佐藤、島田、高坂、竹中、原、眞崎、森井、藪、山崎、横井、吉川、阿部(事務局) ※50音順・敬称略

4. テーマ

キャッシュフローの観点から見た事故・災害時の事業継続対策とリスクマネジメント

5. 報告者

眞崎 達二郎 氏 (眞崎リスクマネジメント研究所)

6. 報告内容骨子

○リスクの分類

○各種リスクとその影響

○各種リスクの発生は防止出来るか

- ・製品事故、設備の事故(火災等)、環境汚染は対策により事故自体の発生を防止できるが、自然災害は発生自体を防止できないために被害を極小化するかが重要だ

○何がキャッシュフローを悪化させるのか

- ・財産の被害自体はキャッシュフローを悪化させない。復旧に要する費用がキャッシュフローを悪化させる。
- ・中毒事故・土壌汚染の場合事故処理費用が発生し、キャッシュフローを悪化させる。
- ・売上が減少すれば、業績が悪化し、キャッシュフローを悪化させる。

○最後はキャッシュフロー

- ・各種リスクは最終的にキャッシュフローの悪化をもたらす。
- ・各種リスクの事故発生後の事業継続については、色々な側面があるが、最後は「キャッシュフロー」お金が回るかが問題となる。

○事例研究

- | | |
|-------------|----------------|
| A) 製品の事故 | 雪印乳業(株)の食中毒事故 |
| B) 設備の事故 | マツダ(株)の工場火災 |
| C) 自然災害(地震) | 新潟三洋電子(株)の地震災害 |

D) 環境汚染 (その1) 窒素(素)の水銀汚染 (水俣病)

E) 環境汚染 (その2) 「大阪アメニティーパーク」の土壤汚染隠蔽

○キャッシュフローから見た事故・災害リスクの留意点

・企業は、各種のリスクが発生した場合、財産の被害・事業中断・売上減少の被害金額・事故処理費用と、その結果のキャッシュフローの悪化の金額を予測し、自社のキャッシュフローの現状がそれに耐えられるかを平素から検討しておかねばならない。

○政府におけるBCP (事業継続対策) の動向

7. 自由意見・情報交流内容

○事業継続計画とJISQ2001はどう違うのか

○考え方は同じであるが事業継続計画は絞り込んだもの

○内閣府で作成した事業継続ガイドラインは専門スタッフがいる大企業向けであるが、中小企業庁のガイドラインは自分でチェックして自ら策定できるように導くようなものが検討されている

○風水災は多かれ少なかれほぼ毎年あるが、地震被害は毎年はないので対策のノウハウがなかなか蓄積できない

○事故や災害発生時の対策も大事だが雪印の例に見られるように事故対応の失態から来る風評被害も大きい

○日本の経営者はリスク対応に対するトレーニングができてない、もともと消費者を見る目がなかった

○災害にあったとき結局はお金である、阪神淡路大震災のときもお金があれば6~7割は解決できた問題だ

○事業継続費用をカバーする保険はあるのか

○営業継続費用や損失利益をカバーする利益保険があるが、火災リスクや風水害リスクぐらいまでなら保険会社の引受能力はあるが、地震リスクとなると首都圏や東海地区など事業所や工場が集積し引受金額が巨額となり、政府が再保険を引受ける個人分野の地震保険とは違い保険会社に十分な引受能力がない。

○個人分野の地震保険は政府が再保険を引き受けているが、それでも損保全体で5兆円の支払いが限度となる

以上

メールアドレス登録・変更通知のお願い

本分科会の開催は開催の都度学会のホームページおよび電子メールでご案内しますので、メールアドレス未登録の方または登録済メールアドレスに変更がある方は学会事務局までご連絡ください。

【MRM (メディカルリスクマネジメント) 分科会】

主査：寺本 研一 (東京医科歯科大学)

2006年度の年次総会はMRM分科会のメンバーである昭和大学の内田英二さんが実行委員長でした。総会をバックアップすべく、前夜祭として医療安全に関するシンポジウムを企画しました。昭和大学病院のスタッフをはじめ500人以上の参加を得、大盛況でした。昨年度は2006年総会に向けて準備を行いました。本年度は本分科会では順番に会員の講演&討論会を開く予定にしています。講演のときのパワーポイントファイルをもとに近い将来書籍出版を考える予定です。本年度第一回の分科会は6月30日、虎ノ門病院の予定です。講演者は辻純一郎さん、野村徹さんです。

【編集後記】

年次大会が終わり、学会の論文集としての研究年報（第4号）も既に皆様方のお手元に届いたことと存じます。ホッとするまもなく、アリマステーターを作っています。当学会の主眼である、危機管理やリスクマネジメントに関する事例・事件も相変わらず世の中をにぎわしています。人、物、組織、環境が複雑に絡み合った事例・事件ですが、それぞれ関連がありそうでも関連性が明確にならないことを、もどかしく感じています。関連性を解明するには、広く浅くではなく、一つのことを深く考えつつ文章として思考を具現化する努力が必要だと感じています。急に暑くなってまいりましたが、是非、夏休み前に論文におまとめ頂き、投稿お願いいたします。特に、年次大会で発表された方々には学会のレベルアップのためにご協力をお願いいたします。引き続き、編集・広報委員長を拝命しておりますのでよろしくお願いいたします。（中村 陽子）

<事務局からのお知らせ>

1.分科会連絡先

教育実践分科会	主査：後藤和廣、TEL. 03-3291-8921/Fax. 3291-8930 e-mail:gotokaz@aol.com
リスクマネジメントシステム研究分科会	主査：指田朝久、TEL. 03-5288-6584(直)/Fax. 03-5288-6590 e-mail:t.sashida@tokiorisk.co.jp
リスク事例サロン分科会	主査：島田公一、TEL. 03-5789-7224/Fax. 03-5789-6680 e-mail:ko-shimada@ioi-sonpo.co.jp
メディカルリスクマネジメント分科会	主査：寺本 研一、TEL/FAX03-5803-5929 e-mail:teraken.srgl@med.tmd.ac.jp

2. 年報・大会報告要旨の有償頒布のご案内

先日開催されました当学会の第6回年次大会の報告要旨と年報4号につきまして在庫が若干ございますのでご希望の方に有償で頒布いたします。ご希望の方は事務局までメールでご連絡ください。頒布価格はいずれも1,500円（送料込み）です。

3. 住所・所属等変更の連絡方法

会員各位の自宅のご住所・電話番号・所属機関の名称・所在・電話番号・職名等について変更の生じた場合には変更前と変更後を並記のうえ必ず文書にて事務局宛ご連絡ください。

発行 危機管理システム研究学会

〒140-0013 東京都品川区南大井 6-3-7

アバンネット南大井ビル (株)リムライン内

TEL. 03-5753-0080 FAX. 03-5753-0086

e-mail: arimass@muh.biglobe.ne.jp

<http://www5b.biglobe.ne.jp/~arimass/>

2006年6月30日発行

印刷 株式会社 文典堂 03-3762-0721